

選択したシラバスのプレビュー画面です

平成27 年度

[操作ボタン](#)
講義科目名称 : **ワークショップ論**授業コード : **54014**

英文科目名称 : ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	演習	2単位	
曜日・時間			
前期: 金曜4限			
配当学科・学年			
人社1			
担当教員			
村尾 敏彦、中村 英一朗			

授業テーマ	「ワークショップ」を体を動かすことや、グループワークに参加することを通して基本から学ぶ
講義概要	人権をはじめ人生や世の中の様々な問題について必ず『正解』があるわけではないでしょう。また、教え込まれただけの正しい答えは、本当の意味で自分のものになっていないのかもしれませんが。そのような中でこのワークショップ論では①体験する（参加者は相互に学び合う）、②振り返る（自分の気持ちを言語化し、相手の言葉を傾聴する）、③一般化する（体験を分析し概念化する）、④応用する（それを経験知・経験則まで高め、次への行動を考える）を通して、人間の成長につなげます。
到達目標	実際に自分の身体と心を使って、楽しくワークショップの手法を学ぶことができる。学びを通して、自分と社会についての新たな向き合い方を見いだすことができる。
評価方法	毎回の「振り返りシート」への記入（30%）と最後の授業でのレポート作成（70%）
評価基準	体験の振り返りにおいて、言語化し、一般化し、応用することができる。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	・毎時講義の中で、感じたこと考えたことを「振り返りシート」に自分の言葉で丁寧に記載すること。 ・教室で椅子に座って講義に耳を傾ける形式の授業ではありません。心身を活動して体験する形式の授業なので、人数が多すぎると授業として成立しません。そのため人数制限をします。授業履修できるのは、60名までです。2クラスに分かれて履修します。履修者数が定員を超えると、抽選を行う場合があります。
準備学習	前時の振り返りを丁寧に、毎授業ごとに提出すること。そのコメントを冒頭の授業で取り上げる。
オフィスアワー等	授業中および授業終了時に質問に対応する。村尾については金曜日3限目に個人研究室（1-234）で質問に対応する。
備考・メッセージ	過去の受講生は、この授業で友人をつくることが多かったようです。生き方についてグループで話し合うワークがはいっているためでしょうか。

授業計画					
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標	
第1回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	ワークショップとは？（7つの側面・話し合うルール作り・聞くトレーニング）	授業の目的と全体像を理解する ワークショップとは何かを説明できるようになる	
第2回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	ワークショップの基本（プランニング・CARRトレーニング他）	ワークショップの基本を具体的な事例をもとに学び、使うことができる。	
第3回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	ダイヤモンドランキング（仕事に求めるもの）	「仕事に求めるもの」について、ダイヤモンドランキングの手法を用いて考え、自分なりの意見・感想を述べるることができる。	
第4回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	トラストゲーム（他者を感じて）	他者の身体と共有された空間を感じ取れるようになる	
第5回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	レスポンスゲーム（ひとからひとへ波のように伝わって…）	他者の身体からの表現に答えて、身体で表現できる	
第6回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	差別・偏見について考える①『宇宙人に自己紹介』『ちがいのちがいがい』より	「宇宙人に自己紹介」「ちがいのちがいがい」のワークより、『違いを豊かさに』を実感を持って理解することができる。	
第7回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	差別・偏見について考える②『熱気球』より ～結婚の条件～	『熱気球』の手法を使い、「結婚の条件」をグループワークを通して考え、自分なりの意見・感想を述べるることができる。	
第8回	演習	中村英一朗 村尾敏彦			

			差別・偏見について考える③ 多数派少数派・青い目茶色い目 [DVD]	被差別の感覚を簡単なゲームを通して体験しつつ「青い 目茶色い目」のDVDを視聴し、自分なりの意見・感想を 述べることができる。		
第9 回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	イメージを共有して（大縄跳 び）	グループでイメージを共有して表現できる		
第 10 回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	Back to Back(絵を描くワーク)	言葉によるコミュニケーションの可能性と不可能性につ いて語れる		
第 11 回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	粘土のワーク（ふたりで作った ら…）	「自己」について形象化できる 「自己」について考えることができる		
第 12 回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	貿易ゲーム① 南北問題を体験を通して考える	ゲームを通して世界の状況や日本の立ち位置を実体験と して学び、その時に浮かんだ感覚や感情、思いを振り返 ることで、世界の抱える南北問題について考えることが できる。		
第 13 回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	貿易ゲーム② フォトランゲージ	前時の振り返りを丁寧にを行い、「世界の家族」からフォ トランゲージの手法でとらえ直し、『豊かさとは何か』 について、自分なりの意見・感想を述べることができ る。		
第 14 回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	オークション（卒業までにつけ たい力）	自身の大学生活についてビジョンをもてる オークションの手法を使い「卒業までにつけたい力」を ゲーム性を帯びながらも、各人や全体の動向が何である かを知ることができる。また、そこから、自分なりの意 見・感想を述べることができる。		
第 15 回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	授業のまとめ	体験を言語化できるようになる		

授業方法					
	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	演習	教室	2	視聴覚教材を活用する	90分×15

閉じる